

人がつどい 未来輝く
安全・安心な庁舎



新庁舎News!

新庁舎整備状況について、毎月掲載していきます

問合せ先 総務課 ☎072-433-7073

新庁舎整備について、令和4年3月「新庁舎整備工事完了」、令和5年3月「現庁舎などの解体撤去および新庁舎の駐車場など外構施設の整備完了」の計画で建設工事を進めています。工事期間中は、大変ご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願いします。詳しくは、ホームページをご覧ください。



ホームページ
QRコード

6月の工事予定



3月から、新庁舎を建てる場所に鉄筋コンクリートの土台(基礎)と、基礎と基礎をつなぐ梁をつくる工事を行った後、基礎と梁の上に新庁舎1階の床を鉄筋コンクリートでつくる工事を行ってきました。

6月から、建物の骨組みを組み立てる工事(躯体工事)を開始します。

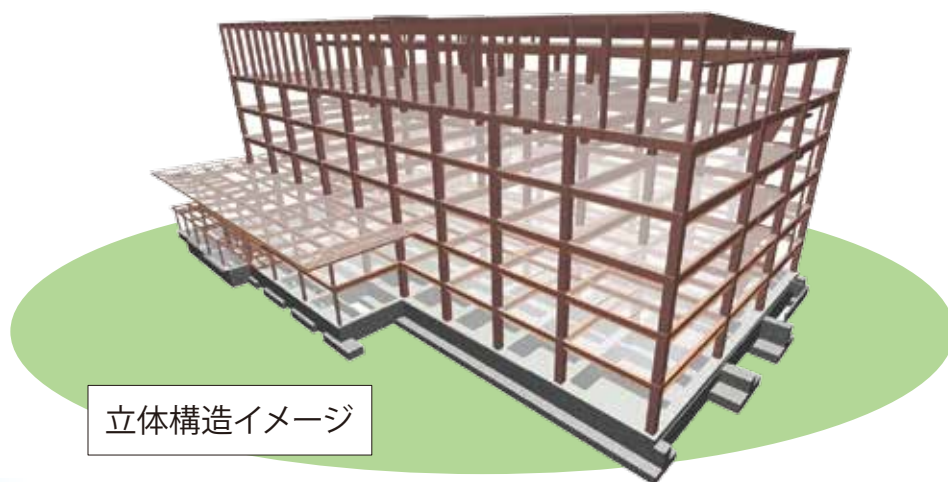
新庁舎は、建物の柱や梁を鉄骨でつくる構造(鉄骨造)を採用しています。鉄骨造は、耐久性があり、建物内部に広い空間を確保することができます。使用する柱は、四角形の鉄骨(一辺が60センチメートル)を使用し、強固な躯体をつくっていきます。

構造計画

新庁舎は、地震、台風などの災害時の救援活動や復旧・復興の拠点としての重要な機能を維持する計画とし、人命の安全確保に加え、建物の機能を十分に確保できる耐震構造とします。

また、鉄骨造・ラーメン構造を採用し、柱間を広くすることにより、将来のレイアウト変更などにも柔軟に対応できる利便性が高い執務空間を確保します。

ラーメン構造…柱・梁を一体とする形で接合させた構造をいいます。「ラーメン」とはドイツ語で額縁(フレーム)の意味。執務スペースを開放的な空間とするため、広い柱間を確保しています。



立体構造イメージ

新庁舎はこんなところ

新庁舎を支える強固な基礎

新庁舎の基礎形式は、建物の位置にあわせて、コンクリートでできた柱を地中につくり、強くなった地盤の上に、直接鉄筋コンクリートの土台をつくる方式(直接基礎+地盤改良)で、建物を安全に支持できる計画としています。

6階建ての建物を支えるのは、直径約1.6メートル、1階の床から8メートルの深さにまで達する450本のコンクリートの柱と、その上につくる鉄筋コンクリート製の基礎。この基礎と梁をつくるために使われる鉄筋の量はなんと約290トン!

強い基礎があるからこそ、大地震(震度6強~7の想定)にも耐える「安全・安心な庁舎」がつけられるのです。

